令和５年５月号

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月１で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。

気象防災アドバイザー

Yoshiaki　Yano

５月の天気は　五月晴れ？ 五月雨？

♪屋根より高い鯉のぼり～・・・・♪　元気よく泳ぐ鯉のぼり、背景が移動性高気圧に覆われた上天気、“五月(さつき)晴れ”の空がお似合いのようです。

“五月晴れ”を辞書で引いてみると、二つの意味が載せられています。

① 新暦５月ごろのよく晴れた天気

② 旧暦５月の梅雨の晴れ間

また、拙宅にあった 50 年程前に出版された歳時記を見ると、明治６年(1873 年)に旧暦が新暦に変り、かなりの年数が経つのに、未だに整理されていない旧暦時代の言葉の一例として、“五月晴れ”が挙げられていました。「近年は新暦５月の晴天を“五月晴れ”という人が多くなってきた」という記述もあります。

“五月晴れ”は、元来②の意味に用いられ、旧暦の５月、おおよそ現行の６月の晴天を指し、梅雨の晴れ間、言い換えれば「梅雨晴れ」と同じ意味で使われていました。時を経れば言葉の意味は変わるもので、今日では①の解釈がすっかり定着し、一般化しています。

「五月雨式のメール送信になってしまい申し訳ありません」などと使う“五月雨(さみだれ)”も②の意味を知れば、梅雨のように“だらだら”と降る雨をイメージでき、“ガッテン”ではないでしょうか。メールを送る側にとっては、“五月蠅い(うるさい)”ことは言わないで、許してという気持ちが見え隠れしているようにも感じます。旧暦５月になれば暖かさも暑さに変わり、蠅(ハエ)の活動がより一層活発になる季節に由来する言葉です。

松尾芭蕉の有名な俳句に「五月雨を　あつめて早し　最上川」があります。現代の感覚からすると、“５月の雨”というイメージは湧きませんが、この五月雨も梅雨の雨を指しているとなると、川の流れも速くなっているのが“ガッテン”できそうです。ただこの句、単に雨で増水した川の様子を詠んだものではなく、増水した最上川を芭蕉が実際に船で下ったという危なっかしい経験が基になっているそうです。

出典：国土交通省水管理・国土保全

家の前の排水溝が詰まっていないかの確認をお願いします

同様な句に、「五月雨や　大河を前に　家二軒」があります。与謝蕪村の句です。降り続く大雨により水嵩が増し、激しい流れの川岸にある２軒の家の危うさが窺えます。自然と人間の存在が対比され人間は自然の力に晒される存在であり、時にその力は荒々しくなるというメッセージを含んでいるように思います。

これからの季節、梅雨の時期も控え、雨の勢いや雨量も一段と増し、局地的な豪雨や線状降水帯、台風も発生･接近します。今年も大雨のシーズンに入るのだ、大雨被害・豪雨災害も発生するものだという気構えを新たにし、その対策と対処について皆さまとともに取り組んで参りたいと思います。

問い合わせ先
危機管理課災害対策係　電話　２２７４

令和５年５月１０日
危機管理課発行